

| 平成 27 年度 岐阜工業高等専門学校シラバス | | | | | | |
|--|-------------------|---|------|------|--|---------|
| 教科目名 | 建築構法Ⅱ | 担当教員 | 犬飼利嗣 | | | |
| 学年学科 | 2年 建築学科 | 前期 | 必修 | 1 単位 | | |
| 学習・教育目標 | (D-2) 80%、(E) 20% | | | | | |
| 授業の目標と期待される効果： 建築構造物に求められる機能は、安全で快適な空間を確保していることである。この授業では、主に鉄筋コンクリート構造と鉄骨構造の基本となる事項を幅広く学習し、続く専門科目を理解するための基礎知識を習得し、それらを建築設計に活用する手段を理解することを目標とする。 (1) 鉄骨構造の材料や構成を理解する (2) 鉄筋コンクリート構造の材料や構成を理解する。 | | 成績評価の方法： 定期試験 2 回：100 点×2=200 点 計 200 点満点とし得点率で評価する。 また、授業に対する姿勢も考慮し、授業の進行を妨げる行為・消極的な行為に対しては、得点率の 1~10%を減じた値で評価する。 具体的には、出席簿に記載した注意の回数と減点 (%) を対応させる。 達成度評価の基準： 以下の(1)~(3)に関連する問題を出題し、それぞれ 6 割以上の正答レベルに達していること。 (1) 構造用鋼材、鉄筋、およびコンクリートの性質 (2) 鉄筋コンクリート構造の構成 (3) 鉄骨構造の構成 | | | | |
| 授業の進め方とアドバイス： 授業は、教科書と板書を中心に行うので、各自学習ノートを充実させること。 適宜参考となる資料等を示すので、予習・復習を必ず行うこと。 また、常日頃から身の回りの建築に注意し、その構法に興味を持つ姿勢が重要である。 | | | | | | |
| 教科書および参考書： 教科書：建築構造（実教出版） 授業資料：プリント類（適宜配布） | | | | | | |
| 授業の概要と予定：前期 | | | | | | AL のレベル |
| 第 1 回：鉄筋コンクリートの構造形式（ラーメン構造・壁式構造） | | | | | | |
| 第 2 回：鉄筋コンクリート構造の構造計画 | | | | | | C |
| 第 3 回：鉄筋の性質 1 | | | | | | |
| 第 4 回：鉄筋の性質 2 | | | | | | C |
| 第 5 回：コンクリートの性質 1 | | | | | | |
| 第 6 回：コンクリートの性質 2 | | | | | | |
| 第 7 回：鉄筋コンクリート構造の材料の特性 | | | | | | C |
| 第 8 回：中間試験 | | | | | | |
| 第 9 回：構造用鋼材の分類と性質 1 | | | | | | |
| 第 10 回：構造用鋼材の分類と性質 2 | | | | | | C |
| 第 11 回：鉄骨構造の構造形式 | | | | | | |
| 第 12 回：鉄骨構造の構造計画 | | | | | | C |
| 第 13 回：鉄骨構造の接合方法（溶接・高力ボルト） | | | | | | |
| 第 14 回：鉄骨構造の柱や梁の形式 | | | | | | |
| 第 15 回：構造部材に作用する応力の種類と性質 | | | | | | B |
| 期末試験 | | | | | | |
| 第 16 回：フォローアップ（期末試験の解答の解説など） | | | | | | |

評価 (ルーブリック)

| 達成度 評価項目 | 理想的な到達 レベルの目安 (優) | 標準的な到達 レベルの目安 (良) | 未到達 レベルの目安 (不可) |
|-------------|---|---|--|
| ① | 構造用鋼材、鉄筋、およびコンクリートに関する問題を正確(8割以上)に解くことができる。 | 構造用鋼材、鉄筋、およびコンクリートに関する問題をほぼ正確(6割以上)に解くことができる。 | 構造用鋼材、鉄筋、およびコンクリートに関する問題をほぼ正確に解くことができない。 |
| ② | 鉄筋コンクリート構造の構成に関する問題を正確(8割以上)に解くことができる。 | 鉄筋コンクリート構造の構成に関する問題をほぼ正確(6割以上)に解くことができる。 | 鉄筋コンクリート構造の構成に関する問題をほぼ正確に解くことができない。 |
| ③ | 鉄骨構造の構成に関する問題を正確(8割以上)に解くことができる。 | 鉄骨構造の構成に関する問題をほぼ正確(6割以上)に解くことができる。 | 鉄骨構造の構成に関する問題をほぼ正確に解くことができない。 |